

IDACAだより

第8号 平成24年 12月 14日

● 編集発行
(財)アジア農協振興機関
東京都町田市相原町 4771
TEL: 042-782-4331
FAX: 042-782-4384

～国際協同組合年記念イベント報告～

日本で開催された「第10回 ICA-AP 地域総会」 並びに IYC イベント「協同組合フォーラム」

国際協同組合同盟・アジア太平洋（ICA-AP）地域総会が11月26日より30日まで神戸国際会議場で開催されました。今年は国連が提唱する国際協同組合年（IYC）であり、11月28日には、ICA-AP、日本協同組合連絡協議会（JJC）、IYC全国実行委員会の共催で第7回協同組合フォーラムも開催されました。「災害時における協同組合の役割」をテーマに、貝原俊民前兵庫県知事の講演や、谷口肇JA全中常務理事からの東日本大震災の被災状況、復旧・復興に向けた日本の協同組合の取り組み概況報告、海外からはタイの洪水被害やスリランカ、インドネシアの津波被害、フィリピンの洪水被害などの報告がありました。加えてそうした災害時に協同組合が果たすべき役割等についても話し合われました。

また、今回のICA-AP地域総会では元IDACA研修員の活躍が目立ちました。ICA-AP女性委員会ではネパールの信用協同組合組合長のオム・デビ・ジョシさん(2008年度ICA女性研修参加)が「協同組合におけるジェンダー主流化に関する取り組み」に関する報告を、またICA地域女性フォーラムではマレーシア協同組合協議会（ANGKASA）部長代理のロズリーナ・オマールさん（2002年度ICA女性研修参加）が「協同組合の女性は安心な社会を築く」をテーマとしてANGKASAの取り組みの報告を行いました。その他にもベトナムやインドネシア、スリランカなど各国を代表して多くの元IDACA研修員の方々が参加されており、活発な議論や意見交換を行なっていました。

最終日には部門別・テーマ別委員会の報告に引き続き、協同組合フォーラム「災害時における協同組合の役割」に関する決議文が採択され閉会しました。



協同組合フォーラム内のパネルディスカッション
《ポーリン・グリーン ICA 会長(左)、萬歳 IDACA 理事長パネラー席(左端)》

《目次》

- 国際協同組合年記念イベント報告 1
- 研修事業報告 2
 - (1) JICA 農協コース
 - (2) 第2回 ICA 農村女性地域活性化支援研修
 - (3) 日本・アセアンキャパシティービルディング強化事業関連研修
 - (4) JICA 農業政策企画コース
- その他の出来事 6

< 研修事業報告 >

(1) JICA 農協コース

国際協力機構 (JICA) の委託を受けて平成 24 年 5 月 6 日から 7 月 14 日の 2 カ月間にわたり、JICA 集団研修「農協の組織と事業の強化」を実施しました。研修には、ブータンをはじめアフリカ・東南アジアの 13 カ国から行政官 17 名が参加しました。

現地研修は、新潟県、高知県、長野県で実施しました。新潟県では、JA 新潟中央会、JA 全農新潟県本部、JA 新潟県厚生連の長岡中央総合病院、JA 越後ながおか、JA 新潟みらい、新潟県中央卸売市場等を、高知県では高知県農業振興部、JA 高知中央会、JA 土佐れいほく、高知県農業技術センター、JA 高知春野、高知県園芸連、JA 高知市、JA 南国市等を訪問しました。長野県では、(社)長野県農協地域開発機構、(社)

**高知県現地研修**

長野県農村工業研究所、長野興農株式会社、JA ながの等を訪問しました。最後に研修員は研修の成果として自国で実践する農協組織・事業強化のためのアクションプランを作成しました。

**視察のお礼はケニア研修員からの歌の贈り物**

JA 高知市ヘルパーステーション
サービス提供責任者 高橋美佐代

平成 24 年 6 月 22 日 JA 高知市宅老所「たんぼぼけら野」での現地視察の実施をさせていただきました。

JICA 研修員の皆様は、日本の農協について組織や事業の仕組みを学ばれ、地域社会における農協の関わりという観点より、農協における高齢者福祉事業の事例視察に、当 JA のたんぼぼけら野を選んでいただきましたこと、JA 高知市の高齢者福祉事業を知っていただけたという思いからも、感謝いたしております。

研修当日は宅老所のしくみを説明させていただき、また、利用者様の最高年齢や健康管理への取り組みなどのご質問も伺いました。

当初、緊張の面持ちであった利用者の皆様も、交流があちらこちらで始めると、笑顔と明るさでコミュニケーションを取り合いながら、次第ににぎやかな時間となっていきました。宅老所の活動の中にある、「カラオケ」をご紹介させていただくと、ケニア出身の研修員の方より、歌の贈り物がありました。後に翻訳も聞かせていただきましたが、歌は万国共通、老若男女、心に伝わるものだと改めて実感したことです。短い時間ではありましたが、利用者様共々、普段の活動とは違った経験ができたこと、楽しい時を過ごせましたこと、ありがとうございました。

(2) 第2回 ICA 農村女性地域活性化支援研修

アジア地域の農村女性リーダー育成を研修の主な目的とした ICA 農村女性地域活性化支援研修が今年も平成 24 年 7 月 10 日から 8 月 4 日まで実施されました。アジア地域の 9 カ国から行政官や協同組合役職員 13 名の女性研修員が参加し、JA や JA 女性組織が地域社会に果たす役割や、女性による様々な起業活動の事例などを学びました。

現地研修は、東日本大震災で大きな被害を受け、原発事故の処理問題も残る福島県を訪問しました。力を合わせて頑張っている福島の姿をアジアの皆さんにも知って欲しいという大川原 JA 福島女性組織協議会会長のご希望から実現しました。

県中央会での講義に続き、JA あいづ女性部の皆さんとの昼食交流会、JA 伊達みらいや JA すかがわ岩瀬の直売所見学、JA たむらのディサービスセンター視察、そして JA そうまでは津波の被災地を見学し、JA 女性部及び JA 役職員の皆さんと交流会を持ちました。

また厚生連病院訪問では近代的な設備の整った農村医療の現場を視察し皆驚きを隠せませんでした。

農産物を作れない悲しみ、また生産しても風評被害で思うように売れない現実に力を合わせて立ち向かい、「今の忍耐、努力は必ず報われると信じている。女性が笑顔でいることがみんなを明るくする」という大川原会長の言葉に研修員一同、大変感銘を受けました。



JAあいづ女性部の皆さんとの昼食交流会

「素晴らしい経験でした！」

(ICA 農村女性地域活性化支援研修参加)



マリヤム・シムラ
水産・農業省 上級調査官
(モルジブ)



それぞれの講義の後に、八王子市内、福島県、山梨県と現地視察が設定されており、講義で得た知識を実際に現場に行き確認ことができ、とても分かり易いプログラムでした。日本の JA は、政府と農民の間に立ち重要な役割を果たしており、とても参考になる成功事例でした。福島県の被災地を視察した際、あのような大災害であったにも拘らずとても速いスピードで復興しているのを見て、日本人のすごさに驚きました。

研修期間中、多くの精力的で仕事熱心な日本の女性リーダーに会いました。皆さんの経験と知識を共有できたことは私たちにとって大変有意義であったと思います。また、タイと日本での研修だけでなく、この研修に参加した研修員の方々からも各国の協同組合の情報を得ることができ、自国の状況とを比較することができました。この貴重な体験と膨大な情報を自国に持ち帰り、協同組合の強化と発展のために活用して行きたいと思います。



国境を越えた交流

JA 福島女性部協議会
会長 大川原 けい子



IDACA の依頼により、ICA 農村女性研修女性研修員 13 名を受入れました。

7 月 24 日、JA 福島女性部協議会役員と JA 福島中央会役職員による歓迎セレモニーで研修会をスタート

し、午前中は、福島県の農業と JA の概況説明、福島県 JA 女性部の活動紹介をさせていただきました。研修員からは「JA 女性部の活動が JA の事業運営に結びついていることに感心」「福島の復興に協力したい」などの意見が出され、有意義な意見交換をすることができました。

お昼には、JA あいづ女性部による五目笹巻、地元の夏野菜や果物などが色鮮やかに並び、楽しい食事会となりました。そんな中、宗教の関係で夜 7 時まで食事ができない人達がいらっしゃいましたが、その風習をしっかり守っている姿に感動いたしました。夜に召し上がっていただけるようにおみやげを渡しましたら、大変喜んでいただきました。言葉は通じなくとも、笑顔で見つめ合うと何か通じるものがありましたし、通訳の方々から上手にコミュニケーションの橋渡しをしていただき、助かりました。

JA あいづ女性部からの日本の茶道体験に対しては、研修員の皆さんが関心を示され、日本の着物を試着しながら日本の伝統文化に触れていただく機会を設けることができ、やって良かったなあと感じた次第です。

また、赤いエプロン（「みんなのよい食プロジェクト」笑味ちゃんエプロン）と日本の豆絞り手ぬぐいで縫った頭巾を気に入っていただき、これもまた試着してのカメラにポーズで楽しんでいる姿がとても印象的でした。私も「会長！会長！」と呼ばれ、一緒に写真におさまる等楽しませていただいたことにもう初めて会った人のように感じておりました。



笑味ちゃんエプロンをかけさせて頂き
ご機嫌な研修員

最初に受け入れのお話しをいただいた時は不安でした。初めてのことなので、どのようにお迎えをすればいいのだろうと皆で考え知恵を出し合ってスタートしましたが、皆様のご協力で研修員の皆様に喜んでいただけたことが一番嬉しかったです。

真心で接すれば言葉や文化が違ってても、国境を越え通じ合うことのできた交流会であったと思えました。国際協同組今年という記念すべき年に、このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。また、機会がありましたらお会いしたいですね。

最後に、沢山のおみやげ、ありがとうございました。大切にに使わせていただいております。この度の交流会が何かの役に立っていただければ幸せに思います。そして ICA 並び

(3)日本・アセアン キャパシティビルディング強化事業による 「農業協同組合を通じるアグリビジネスの振興」コース

東南アジア諸国連合(ASEAN)は 2015 年の経済統合を目指して、農産物の品質の向上や食の安全性向上を目指し、農産物の競争力を高めるための政策実施に取り組んでいます。それに対し日本の農林水産省はその支援策として、ASEAN 事務局に事業費を拠出しています。ASEAN 事務局が実施する様々な事業のうち JA 全中が受注したプロジェクトの一環である短期研修受入れを IDACA で実施することとなりました。



JA 全中にて開講式

農業協同組合を通じた GAP の実施、適正価格実現の手法と農産加工による付加価値づくりなどを研修のテーマに定め、ASEAN 加盟国のうち 9 カ国から合計 20 名が参加し、平成 24 年 8 月 6 日より 8 月 18 日までの期間に実施しました。現地研修では長野県を訪問し GAP の取組みに関する講義や農産加工の現場を視察しました。



長野県いんど農家訪問



(4)JICA 農業政策企画コース

JICA からの受託研修である「農業政策企画」コースは、平成 24 年 8 月 28 日から 9 月 23 日までの期間で実施され、当機関内及び農林水産省でのプログラムを基礎として、現地研修では熊本県を訪問しました。

今年度はアジア、中東、アフリカ、南米の 13 カ国から 15 名が参加し、食料・農業・農村基本法から基盤整備、地域農業と生産・販売の中心的な役割を果たす農協の活動、直面する課題への様々な取り組み等を県、市町村段階まで視点を向けて研修に取り組みました。

現地研修では、営農に焦点を当てた農協の事業、県の政策とその具体例としての集落営農の取り組み、そして女性生産者グループの

活動等についても考察する機会となりました。研修の最後に各国の農業政策への提案としてのアクションプランが作成されました。



JA やつしろ訪問



**「日本での貴重な経験」
(JICA 農業政策企画コース参加)**

アーマド・ザリフ・ムタキ
経済省 農業・灌漑部
農業政策担当部長 (アフガニスタン)



皆さんご存じの通り、アフガニスタンは長期にわたる内戦のため主要なインフラを破壊され、荒廃しており、この国を復興させ発展させていくためには豊かな知識と経験を持った人材なくしては考えられません。それゆえ様々な経験し知識を蓄えることが自分に課せられた義務だと思い、この研修に参加しました。また、日本は第二次世界大戦で同じような経験をし、目覚ましい復興を果たした素晴らしい手本であり、まさに我々が到達すべきゴールであると思っています。

また、日本での研修は講義、演習、訪問がバランスよく組み合わされておりとても理解しやすいものでした。特に我が国の農産物に対する政府の政策、農業協同組合、流通、マーケティング等の問題解決に大変有益であり、農業開発プロジェクトの分析やモニタリングに活用することが出来ます。

日本社会は私にとって大変学ぶことが多く、特に日本人の正直さ、勤勉さ、几帳面さそして親切な接し方は手本となることは明らかです。IDACA の皆さんに心からの敬意を表します。

<その他の出来事>

**台湾農民団体幹部総合訓練協会(農訓協会)
役員来館**

平成 24 年 10 月 23 日(火)、IDACA と姉妹提携している台湾の農訓協会専務理事王志文氏、同国際部課長洪崇仁氏が来館されました。平岡常務理事他 IDACA 職員とお互いの組織の近況報告と情報交換をし、今後とも姉妹提携の強化をして行く事で意見の一致を見ました。国レベルの外交では難局に直面していますが、農訓協会と IDACA は互いの立場を尊重し、今まで通りの友好関係が継続するよう努めて行きます。

